（資料の背景）

この資料は、ある公認会計士事務所さんからのご依頼で、
開業していらっしゃる女性の医師の方30名ほどにお話をさせて
いただいたときに使った資料です。

日本で「医師」と呼ばれる職業に就いている女性であれば、
必ずはまり込むことになる『社会的構造』について解説しています。

クリック経営や診療所経営の先行きに「不確かさ」を感じる
とお話ししてくださる方には、必ずお見せしている資料です。

解説

開業女医を疲弊させる

『ねじれた構造』と『歪んだ自己認知』

僕の印象

僕は、クリニックや、診療所を
経営していらっしゃる女医さんたちから
お仕事のご依頼をいただくことが多いのですが。

僕の印象

彼女たちのお話を聞いていると、
まわりの人たちから「すごいですね」
と言われているケースが非常に多い
という印象があります。

僕の印象

僕に対しても最初のうちはそんな感じで、
よそ行きの顔を見せていらっしゃったり
するわけですが。

僕の印象

そのうち慣れてくると
いろんなことをお話ししてくださる
ようになります（笑）

僕にお話をしてくださる内容は

そうやって、お話ししてくださる

内容の中には。。。

僕にお話をしてくださる内容は

「こんなはずじゃなかったんだけどな。。。」

僕にお話をしてくださる内容は

という話が出てくることが、

結構たびたびあるわけでして。

「こんなはずじゃなかったんだけどな。。。」とは？

どういうことかというと。

「こんなはずじゃなかったんだけどな。。。」とは？

彼女たちの言葉を借りれば

「医者になったら、もっといい感じの世界が広がると思ってたんだけど。。。」

とか。

「こんなはずじゃなかったんだけどな。。。」とは？

「開業したら、もっといろいろできる人生になると思ってたんだけどな。。。」

ということのようなのです。

「こんなはずじゃなかったんだけどな。。。」とは？

つまり、
お医者さんにもなったし、開業もしたんだけど。

当初、「こういう世界が広がるんだろうな」と期待していた世界とは
まったく違う世界にいるような気がする。。。

とのこと。

「こんなはずじゃなかったんだけどな。。。」とは？

そして僕に向かって、

「なんでこんなことになっちゃったんだろ。。。」と、

質問のような、ひとりごとのような、そんな発言をする。

「こんなはずじゃなかったんだけどな。。。」とは？

そして僕に向かって、

「なんでこんなことになっちゃったんだろ。。。」と、

質問のような、ひとりごとのような、そんな発言をする。

そのような方はめちゃくちゃ多いのです。

「こんなはずじゃなかったんだけどな。。。」とは？

そこで僕は、おひとりおひとりに対して、

「なぜ、そのようなことになっているのか」

の理由をお話しすることになるのですが。

そこには「構造」があるのです

ではなぜ、僕がその理由をお話しすることができるのかと言えば。

世の中には、彼女たちが
「なんでこんなことになっちゃったんだろう。。。」
と言うことになる状況が、
生まれることになる構造があるからです。

そこには「構造」があるのです

つまり、それぞれの人が
「なんでこんなことになっちゃったんだろう。。。」
と言うことになる状況は、

それぞれの人の個人的な資質によって生まれているわけではないのです。

そこには「構造」があるのです

そうではなくて、

その状況は『社会的な構造』によって

生み出されている。

そこには「構造」があるのです

簡単に言ってしまえば、

・日本にいて、

・クリニックや診療所を開業している女性の医師であれば、

必ず、「なんでこんなことになっちゃったんだろ。。。」

とつぶやくことになる。

今の日本には、そういう『社会的な構造』があるのです。

これは「構造」ですから、例外はありません

これは「構造」ですから、
その「構造」にはまった人は全員、
まったく同じ経験をすることになります。

これは「構造」ですから、例外はありません

その一方で、
その「構造」がどのようなものなのか
を理解していらっしゃる方は多くはない
というのが、これまでいろんな先生方から
お話をお聞かせいただいてきた僕の実感です。

これは「構造」ですから、例外はありません

いずれにしても、事実として、

・日本にいて、

・クリニックや診療所を開業している女性の医師であれば、

必ず、「なんでこんなことになっちゃったんだろ。。。」

とつぶやくことになる。

今の日本には、そういう『社会的な構造』があるのです。

これは「構造」ですから、例外はありません

では、その「構造」とはどういうものなのか？

今日はその「構造」を詳しく解説してみようと思います。

「構造」がわかれば、そこから抜け出すこともできる

なぜなら、
今、ご自身が置かれている状況が
どのようなものなのかがわかれば、
そこから抜け出す方法を見つけることもできるようになる
と思うからです。

これからお話しする内容を、まさに今日から
お役立ていただければと思っています。

今日お話しする内容は

・女性の医師にのみ当てはまる構造がふたつ

・開業している医師にのみ当てはまる構造がひとつ

・「医療」に関わる人全員に共通する特徴がひとつ

・医療業界の土台にある構造がひとつ

の合計5つです。

「女性の医師にのみ当てはまる構造」　ひとつめ

ではまず、「女性の医師にのみ当てはまる構造」のひとつめを
解説していきます。

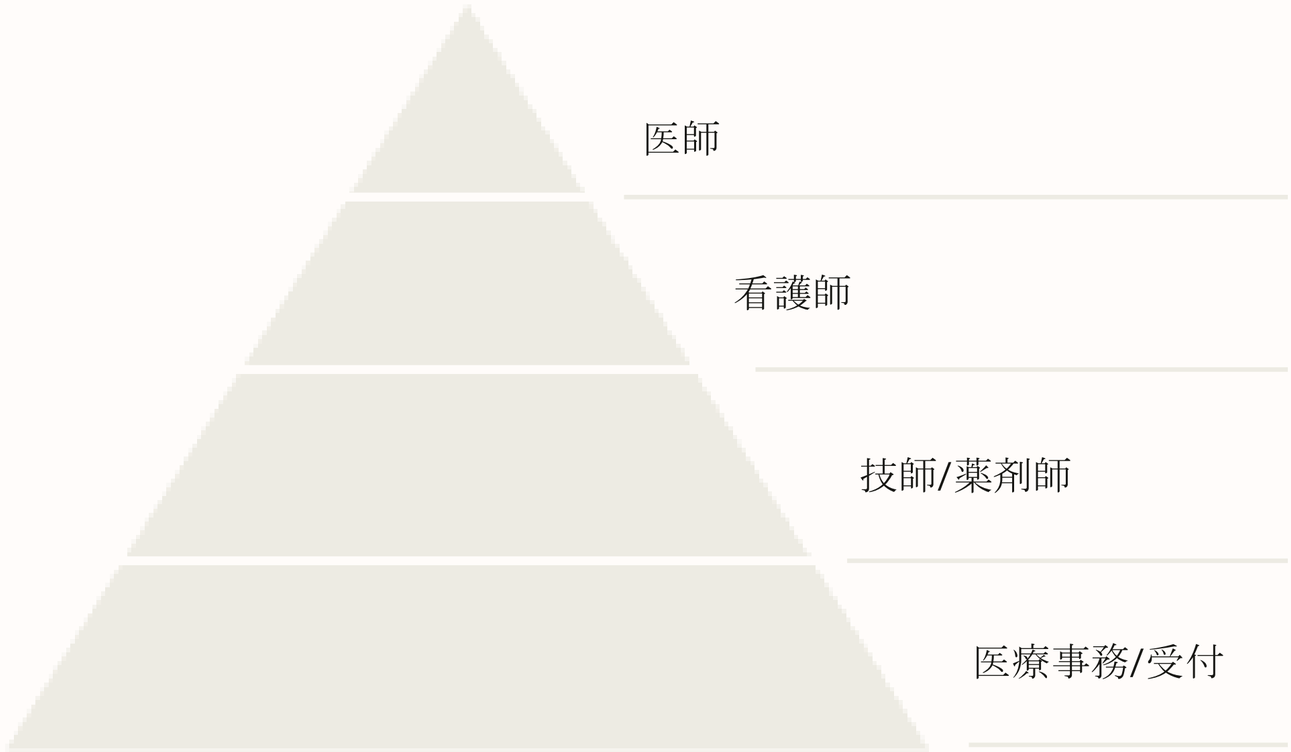
この構造は、日本での女性の医師の立ち位置に関するものです。

【医療業界】のヒエラルキー

まず、医療業界には、医師という職業に就いた人を頂点とする
ヒエラルキーがあります。

【医療業界】のヒエラルキー

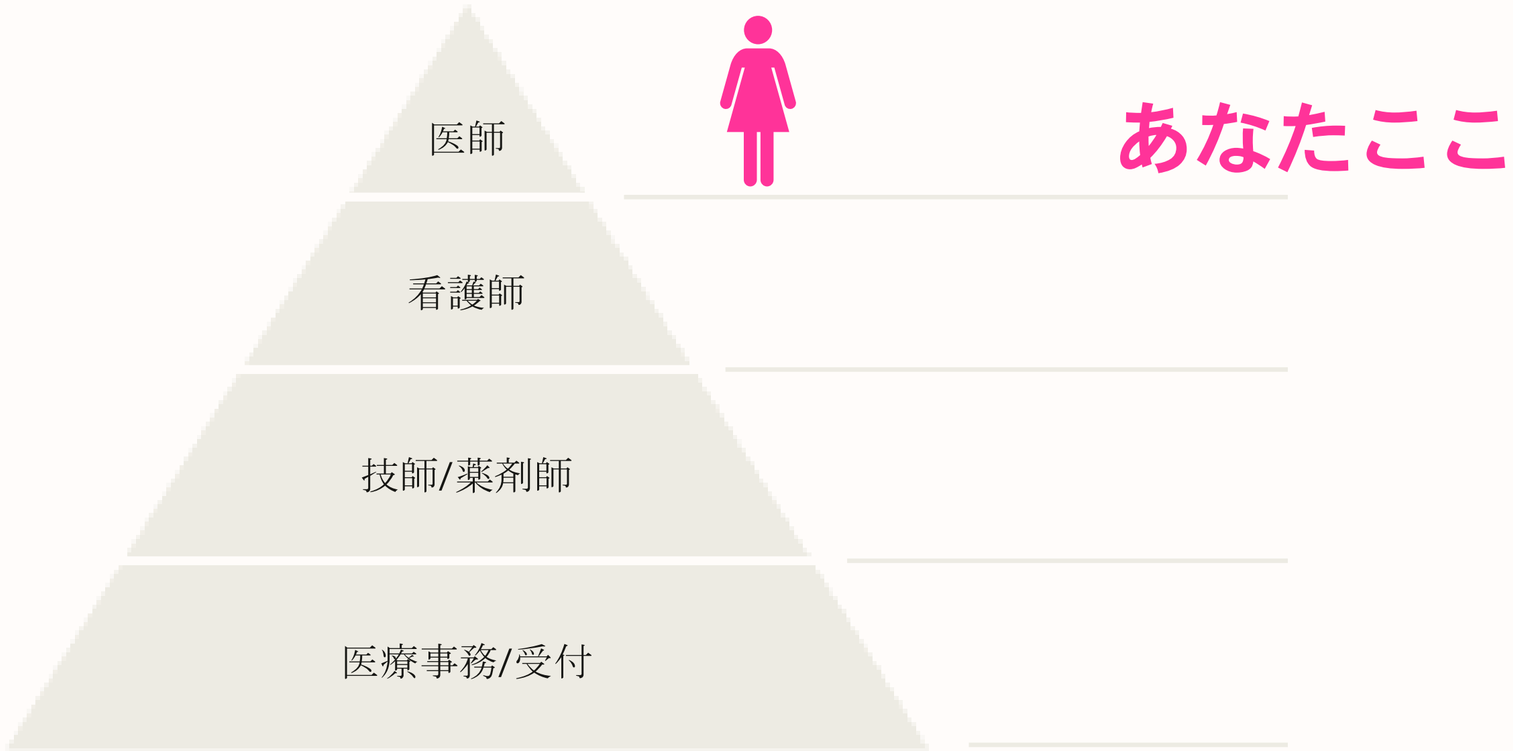
まず、医療業界には、医師という職業に就いた人を頂点とする
ヒエラルキーがあります。



このヒエラルキーは、
医師と呼ばれる職業に就いている人たち
を最上位の階層に持ち、
その下に、「看護師」「技師/薬剤師」
「医療事務/受付」などの職業に
就いている人たちが連なる構造に
なっています。

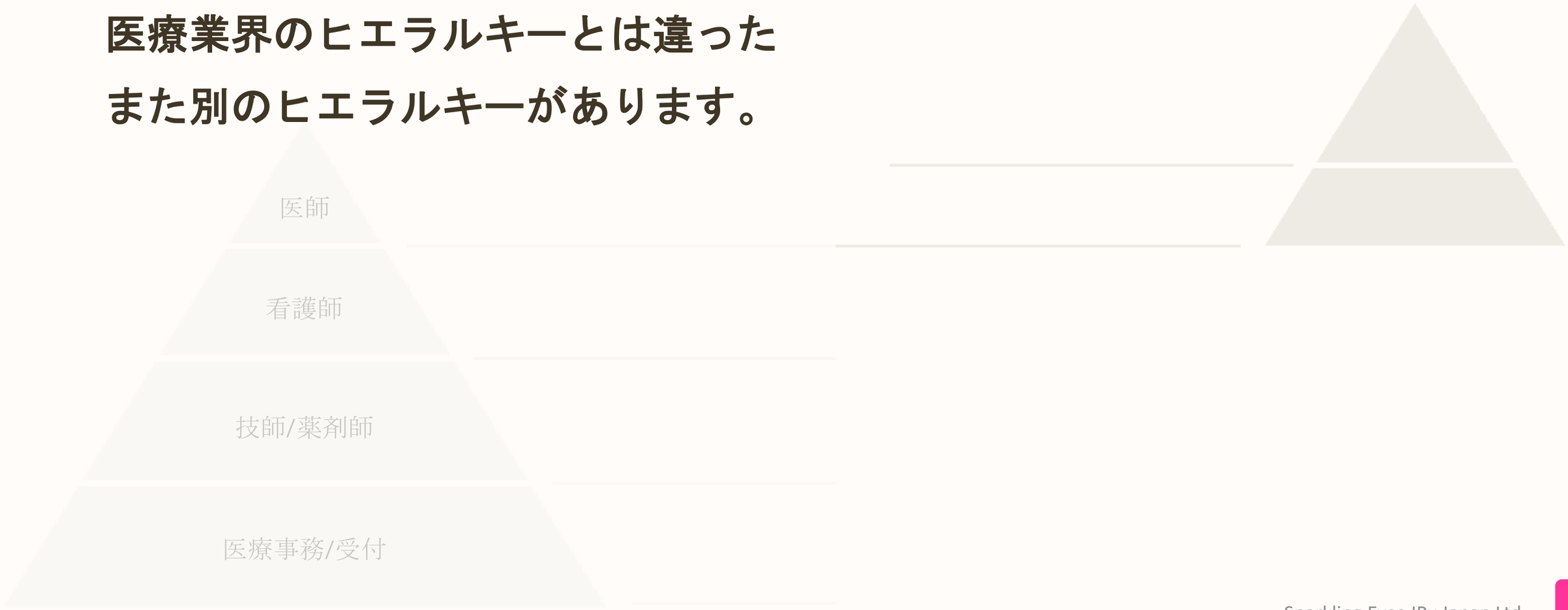
【医療業界】のヒエラルキー

このヒエラルキーの中で、女性の「医師」は
この階層に位置します。



【医師の世界】のヒエラルキー

ところで、医師の世界には、
医療業界のヒエラルキーとは違った
また別のヒエラルキーがあります。

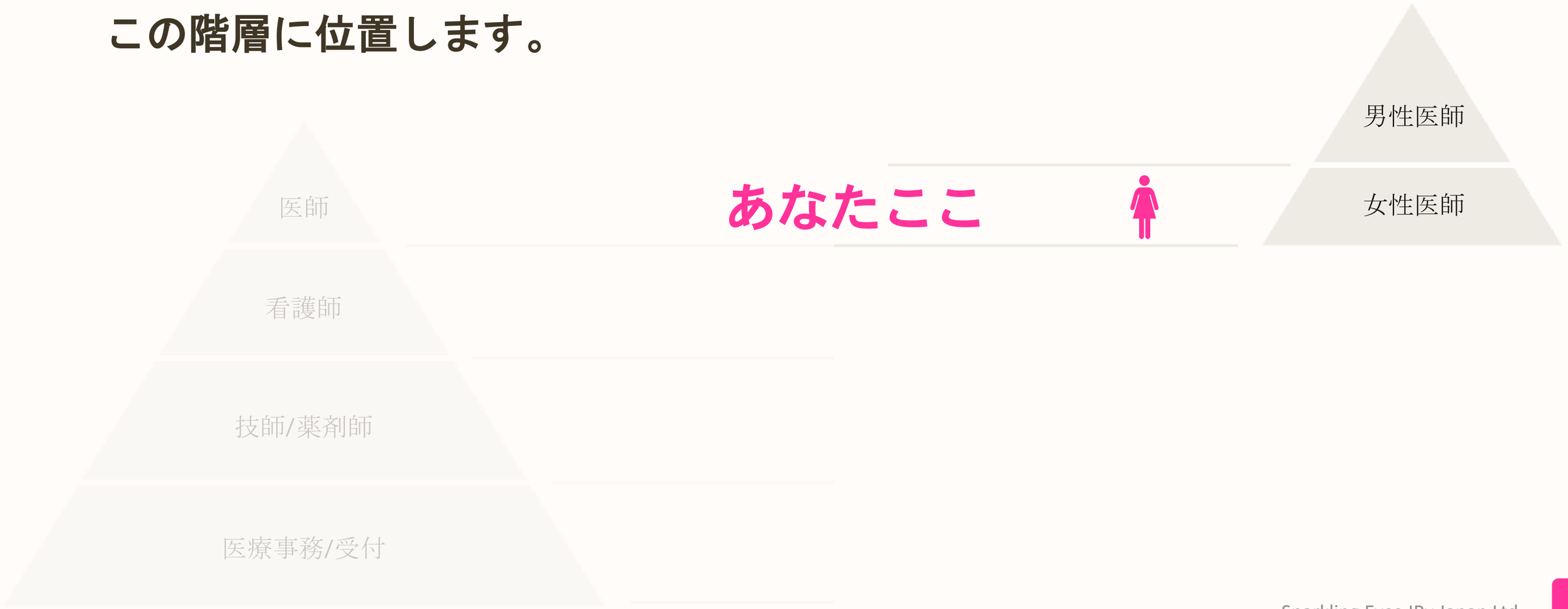


【医師の世界】のヒエラルキー

そのヒエラルキーは、
このような構造になっています。

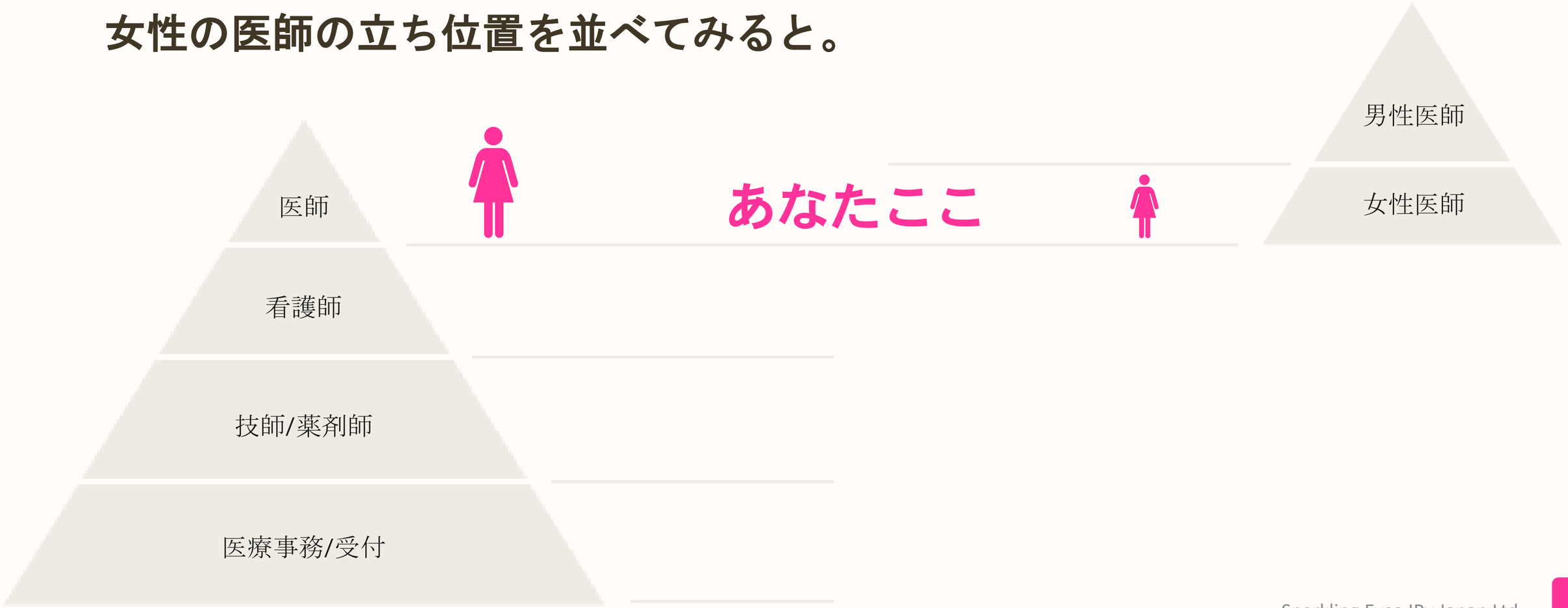
【医師の世界】のヒエラルキー

このヒエラルキーの中で、女性の「医師」は
この階層に位置します。



「歪んだ」ヒエラルキー構造

【医療業界のヒエラルキー】と【医師の世界】のヒエラルキーでの
女性の医師の立ち位置を並べてみると。



「歪んだ」ヒエラルキー構造

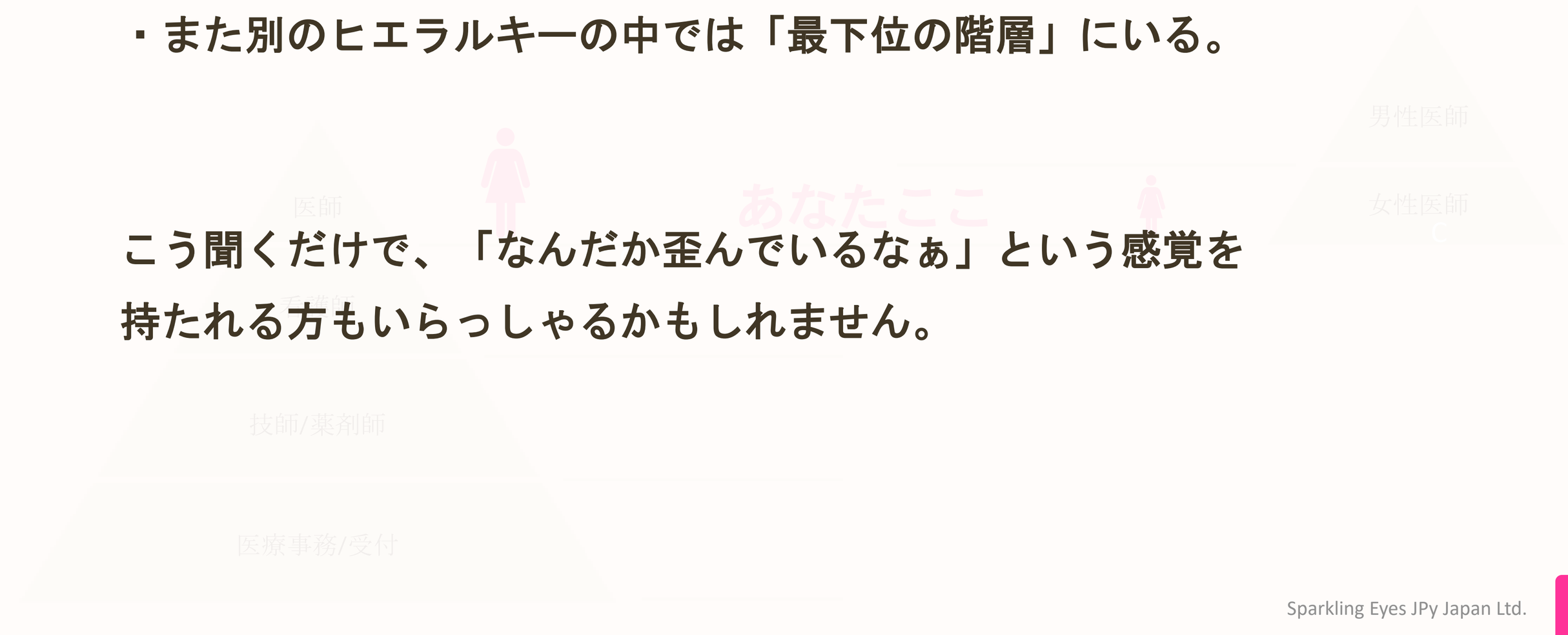
このように、女性の医師は、

- **【医療業界】のヒエラルキーでの「最上位の階層」**
- **【医師の世界】のヒエラルキーでの「最下位の階層」**

というふたつ階層に同時に位置することになっています。

「歪んだ」ヒエラルキー構造

・ひとつのヒエラルキーの中では「最上位の階層」にいて、
・また別のヒエラルキーの中では「最下位の階層」にいる。

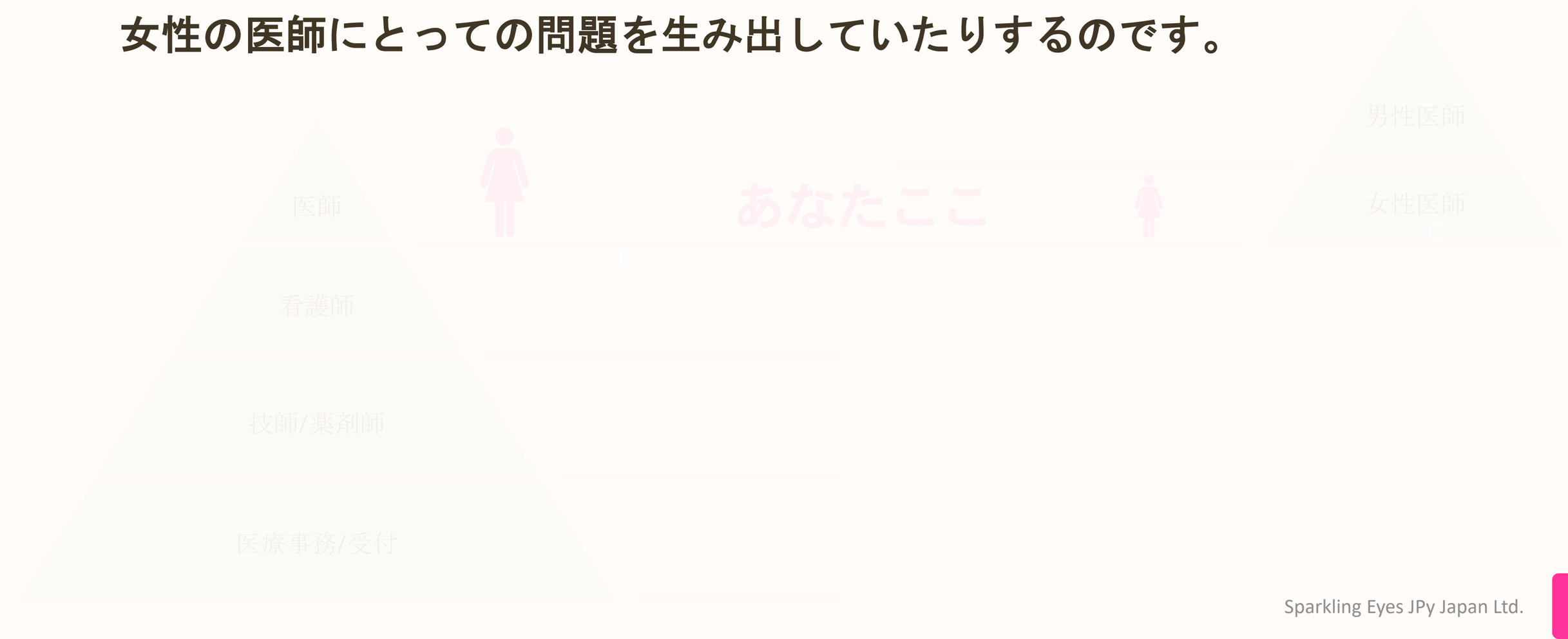


こう聞くだけで、「なんだか歪んでいるなぁ」という感覚を
持たれる方もいらっしゃるかもしれません。

「歪んだ」ヒエラルキー構造

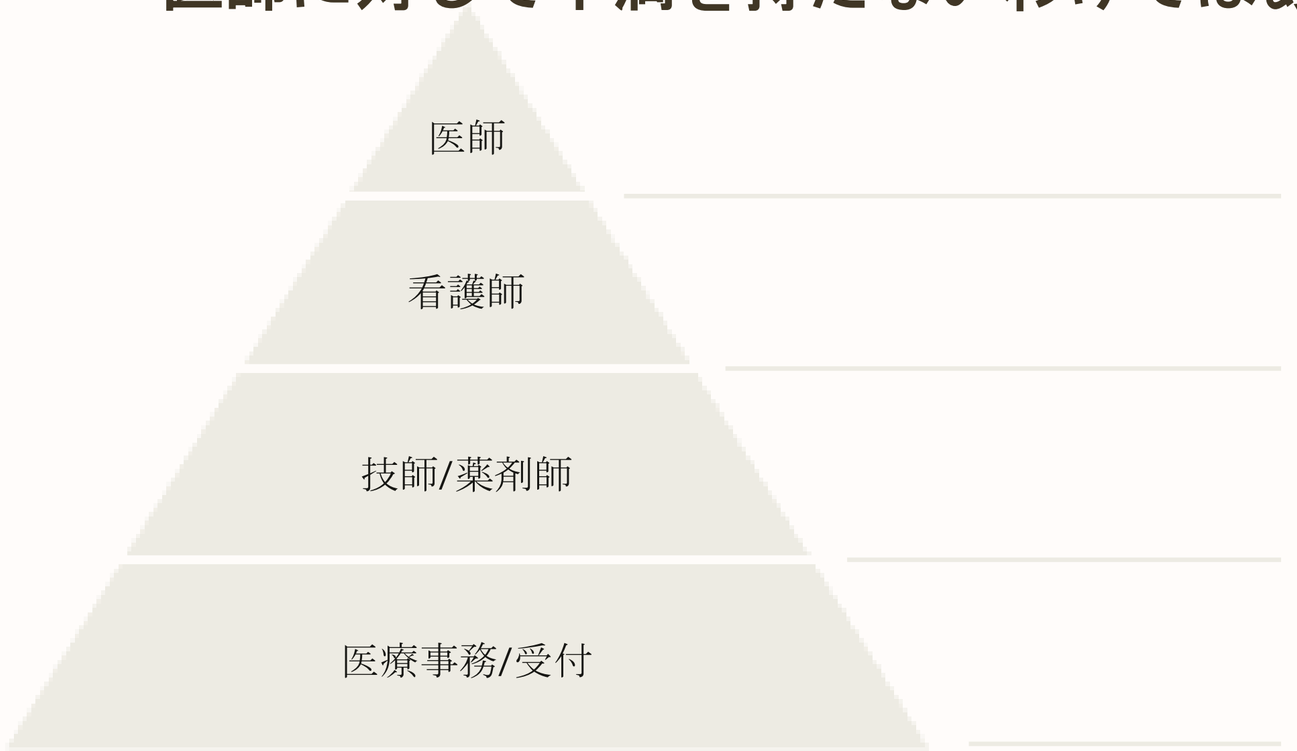
そして実際、この「歪み」こそが、

女性の医師にとっての問題を生み出していたりするのです。



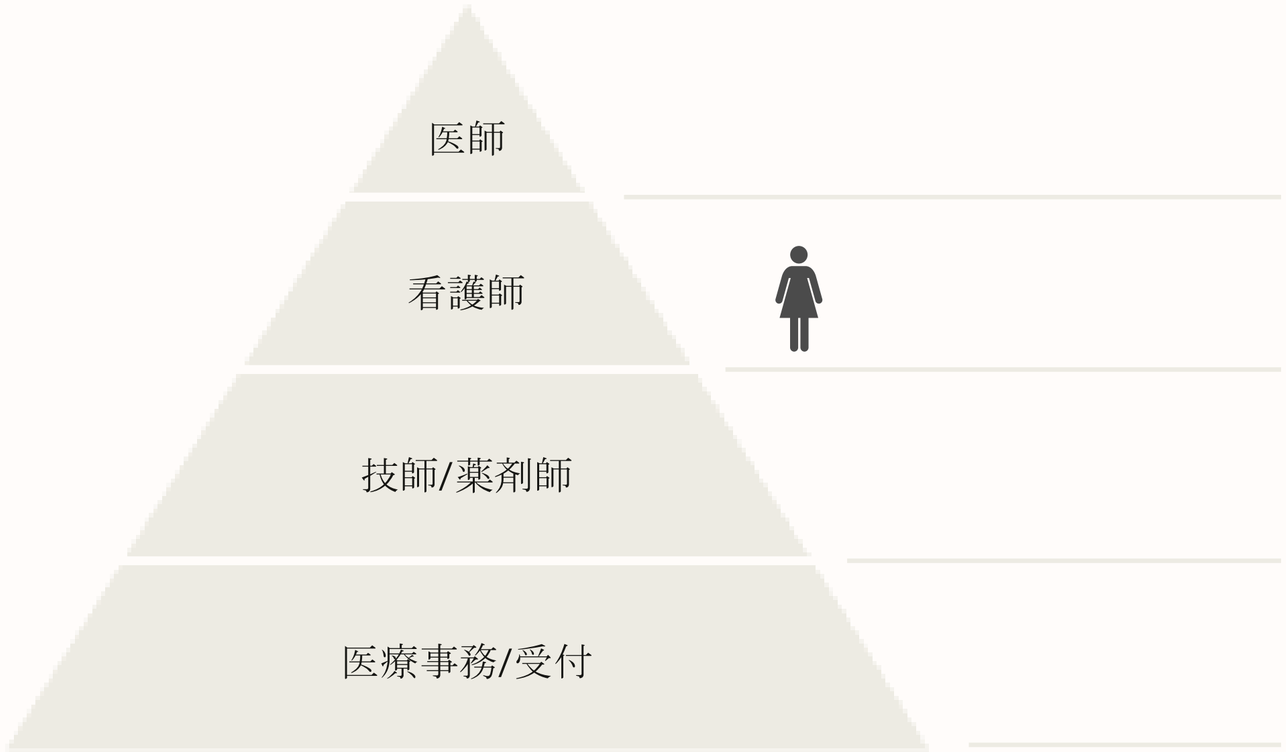
「歪み」が生み出す問題

たとえば、医療業界は医師を頂点としたヒエラルキー構造をもちますが、
そうはいっても、そのヒエラルキーに属する人たちが、
医師に対して不満を持たないわけではありません。



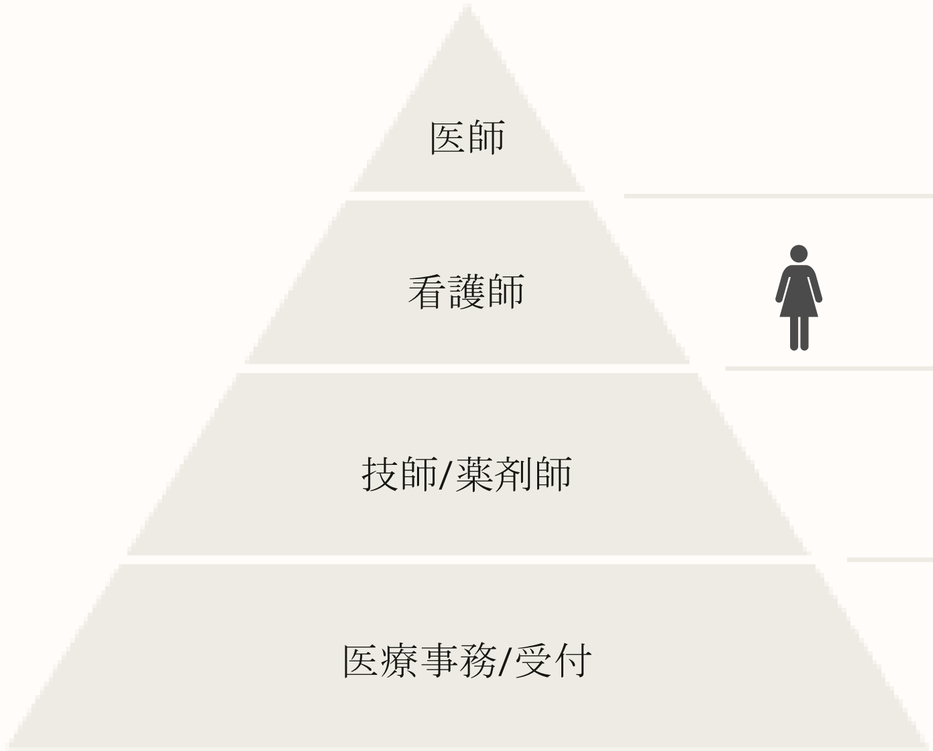
「歪み」が生み出す問題

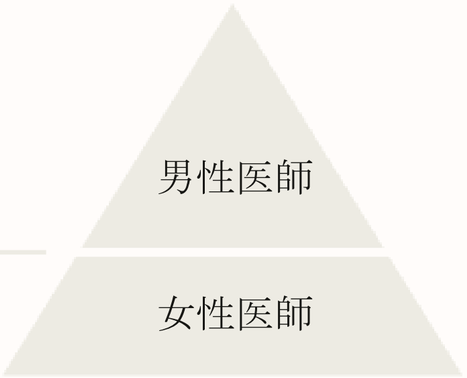
では、たとえば、ある看護師さんが医師に対して不満を持ったとき。
その看護師さんは、誰に向かって文句を言うでしょうか？



「歪み」が生み出す問題

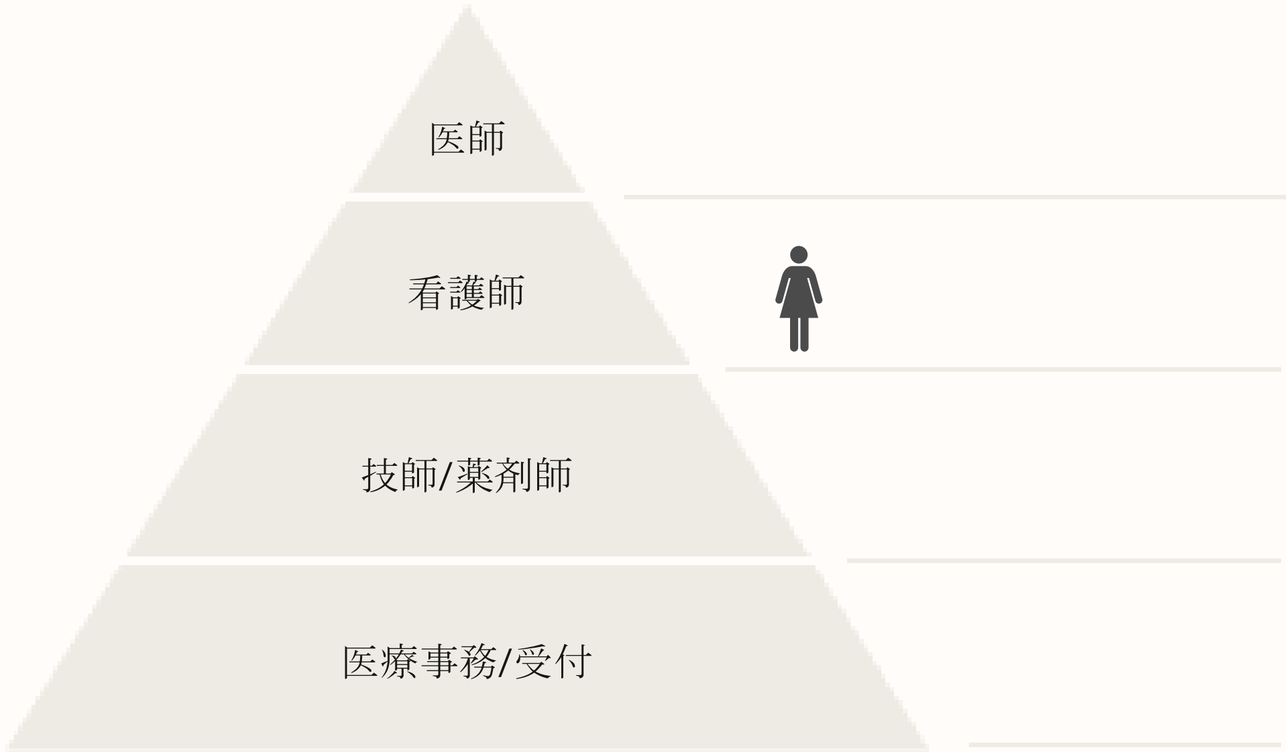
なんだか立派な肩書を持った、
男性の医師に文句を言うでしょうか？

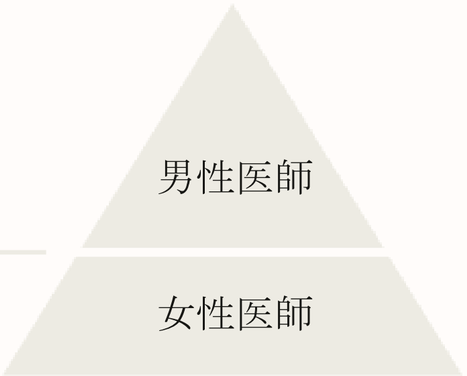




「歪み」が生み出す問題

なんだか立派な肩書を持った、
男性の医師に文句を言うでしょうか？



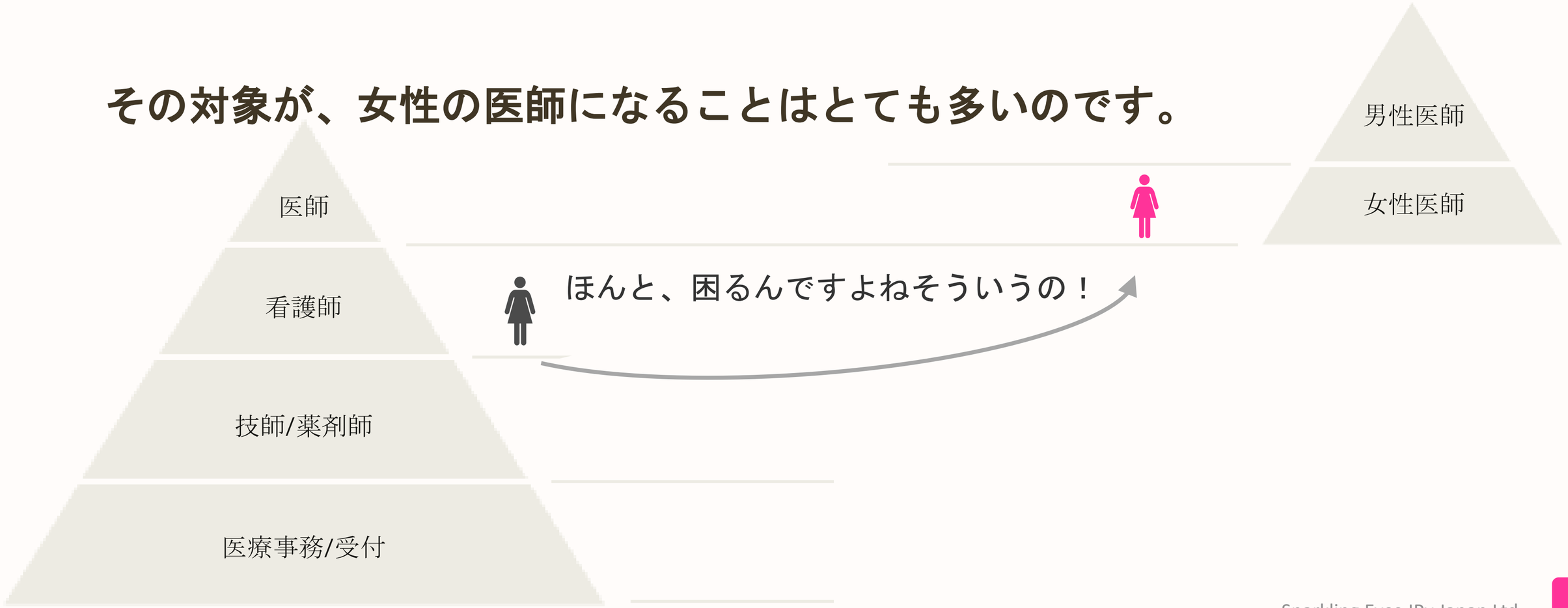


おそらくそうはなりません。

「歪み」が生み出す問題

では誰に文句を言うかと言えば。

その対象が、女性の医師になることはとても多いのです。



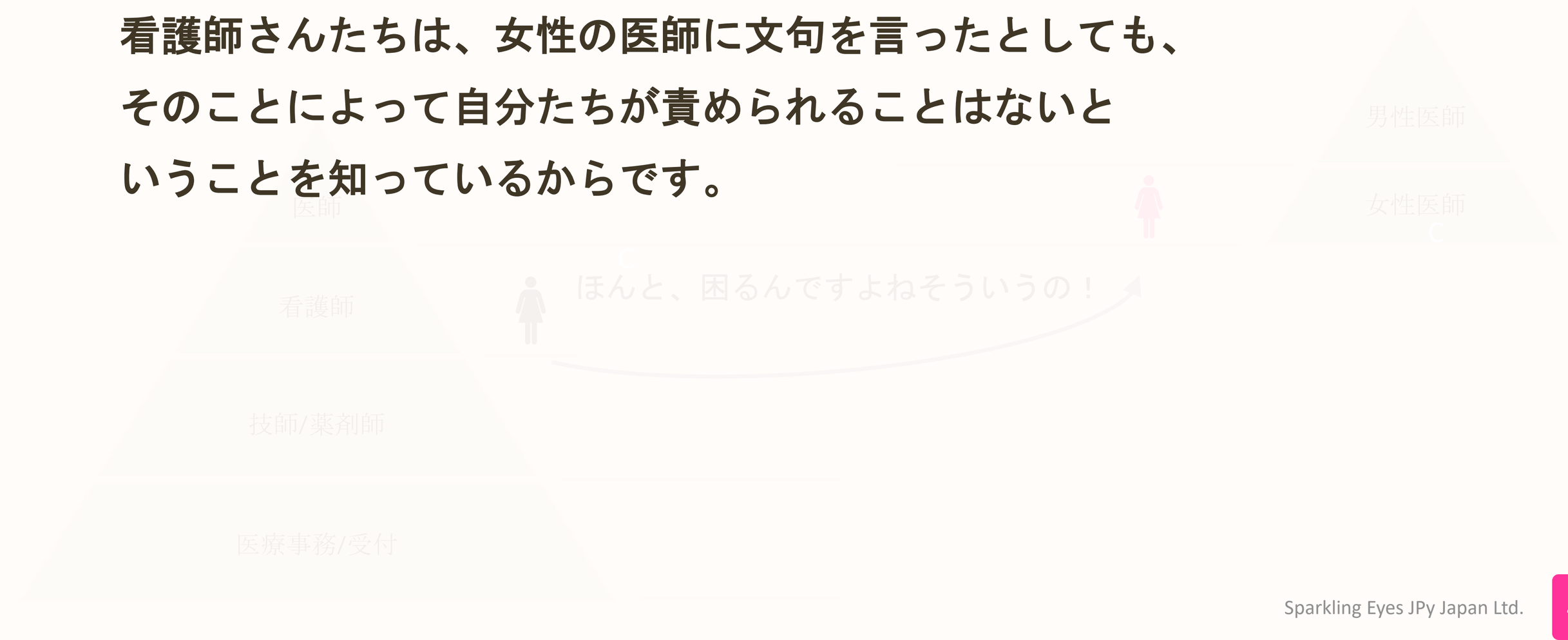
「歪み」が生み出す問題

なぜならば。

看護師さんたちは、女性の医師に文句を言ったとしても、

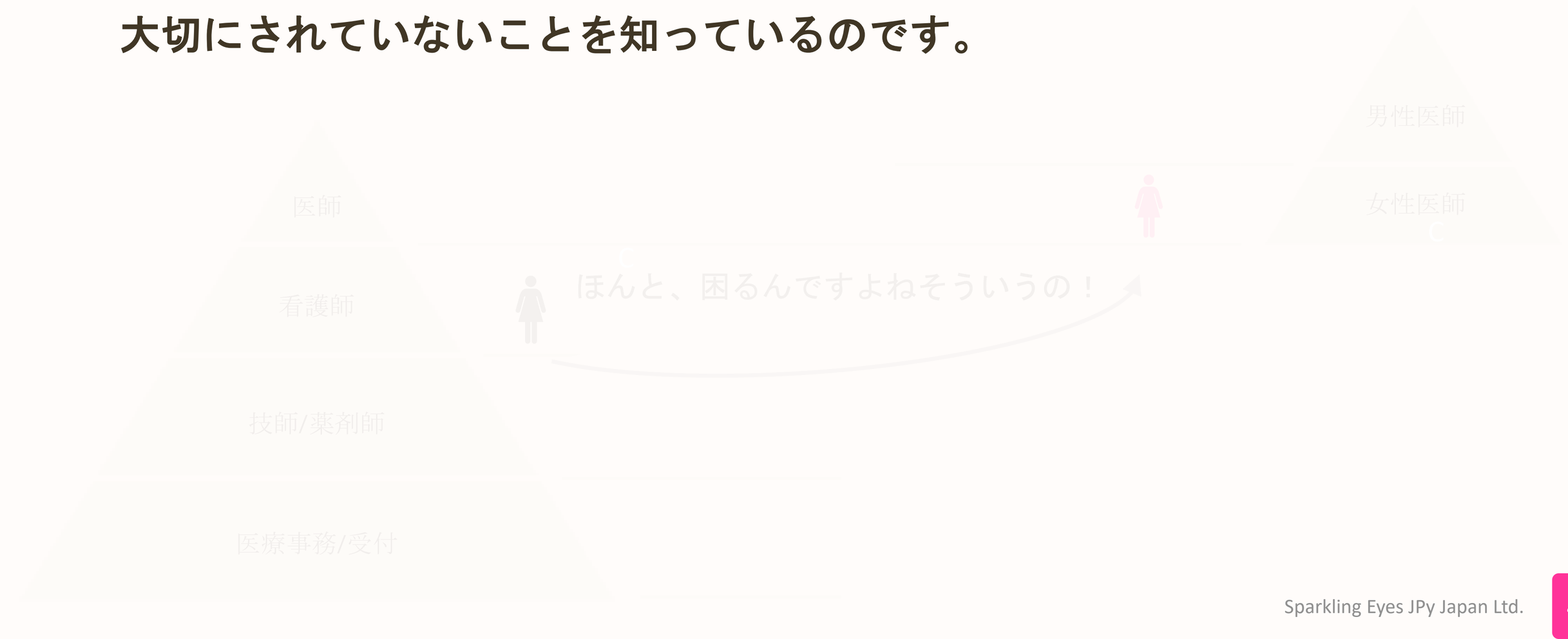
そのことによって自分たちが責められることはないと

いうことを知っているからです。



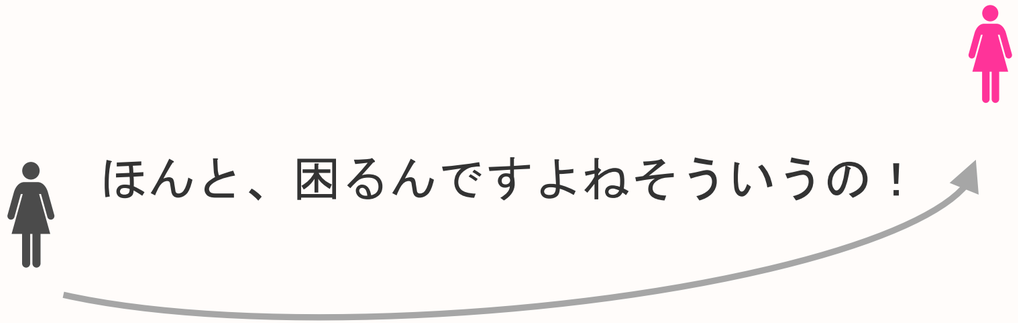
「歪み」が生み出す問題

つまり、看護師さんたちは、女性の医師が、男性の医師から
大切にされていないことを知っているのです。



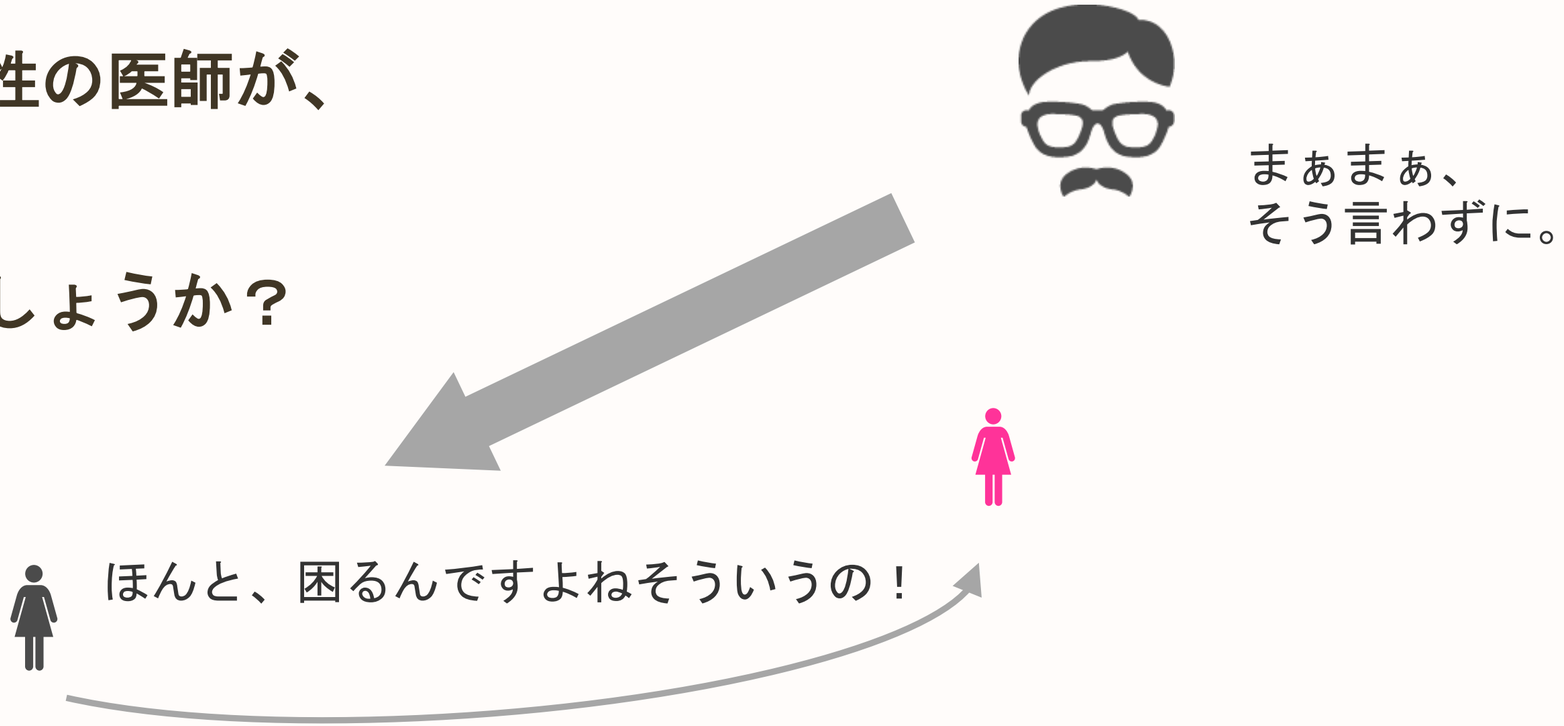
「歪み」が生み出す問題

たとえばですが、ある女性の医師が、看護師さんから文句を言われているとします。



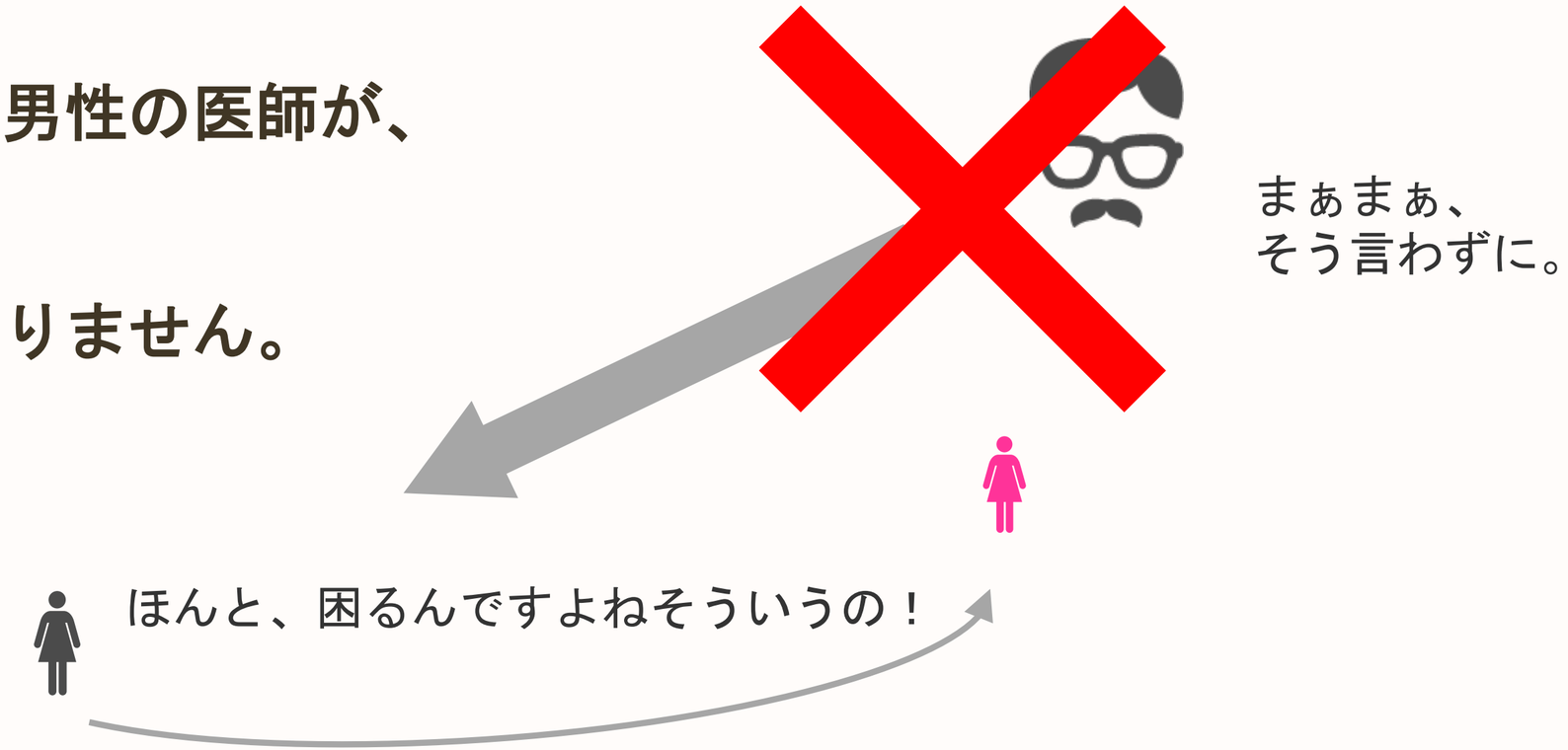
「歪み」が生み出す問題

ではこのときに、男性の医師が、
この女性の医師を
かばうことがあるでしょうか？



「歪み」が生み出す問題

実際の話をすると、男性の医師が、
この女性の医師を
かばうことはほぼありません。



「歪み」が生み出す問題

普通であれば、見て見ぬふり。

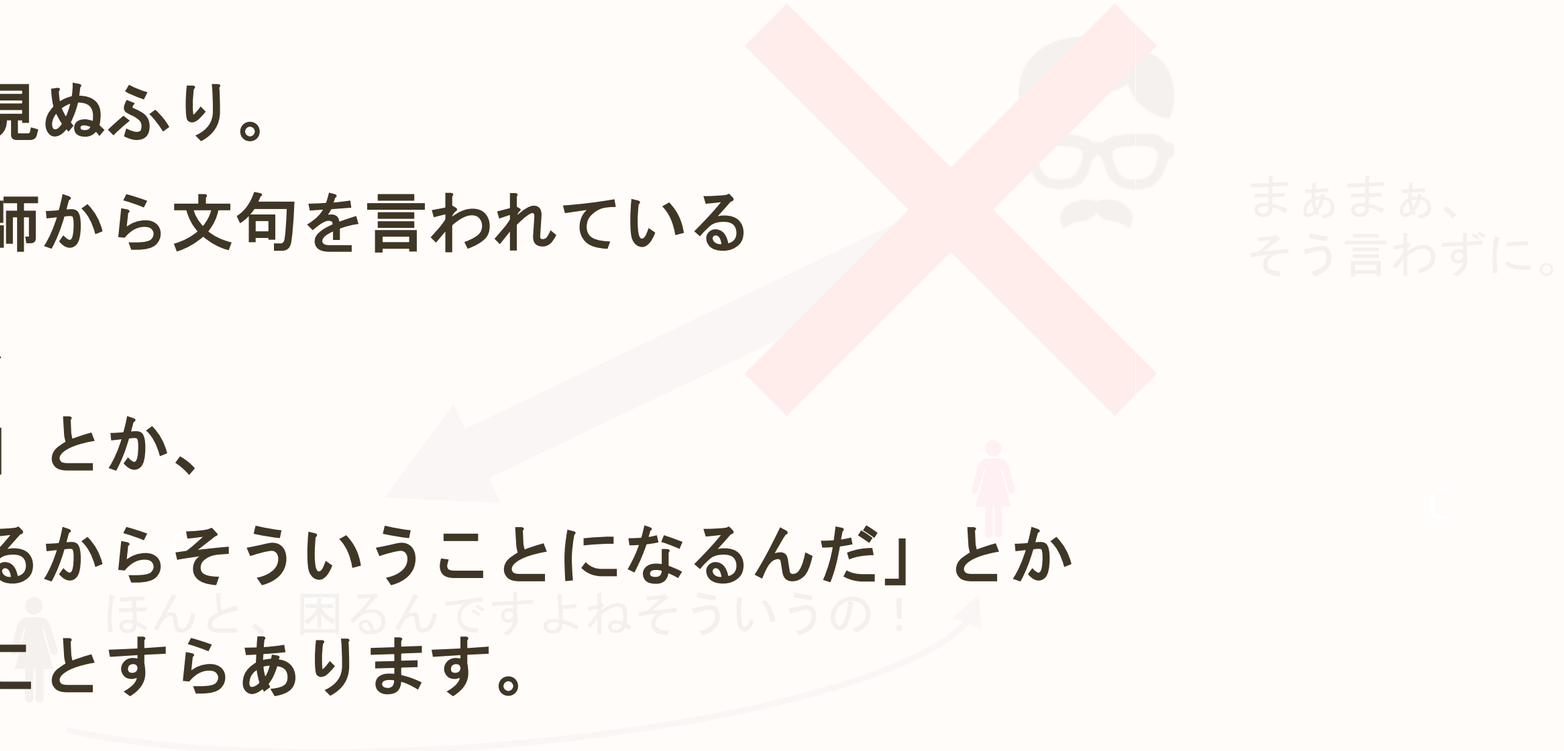
それどころか、看護師から文句を言われている

女性の医師に対して、

「なにやってんだよ」とか、

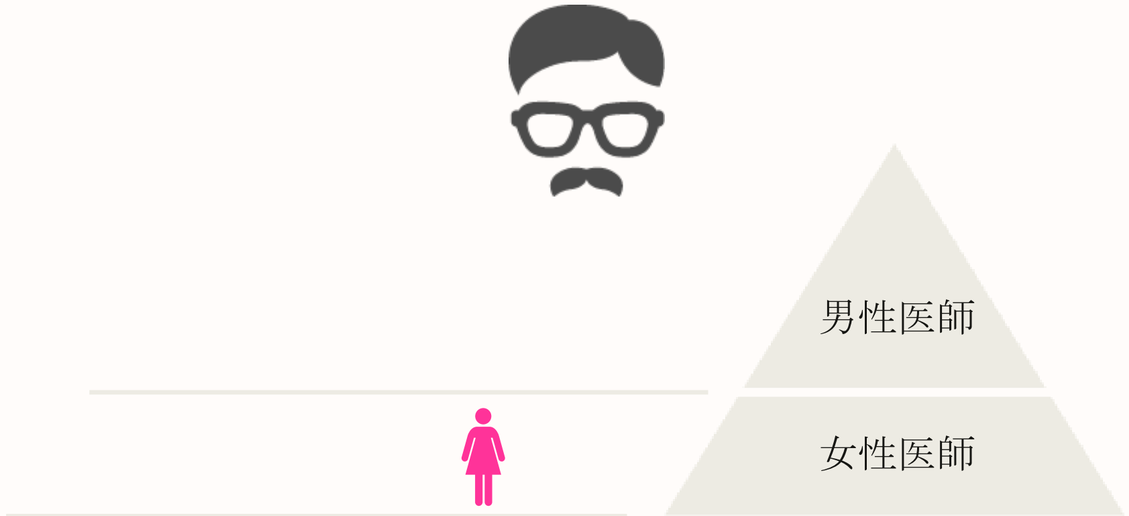
「自分に落ち度があるからそういうことになるんだ」とか

という感じで責めることすらあります。



「歪み」が生み出す問題

なぜならば、
男性の医師は女性の医師のことを、
基本的に自分たちよりも下の存在だと
認識しているからです。



「歪んだ」ヒエラルキー構造の中で

先程もご説明した通り、女性の医師は

- **【医療業界】のヒエラルキーでは「最上位の階層」**
- **【医師の世界】のヒエラルキーでは「最下位の階層」**

というふたつ階層に同時に位置することになっています。

「歪んだ」ヒエラルキー構造の中で

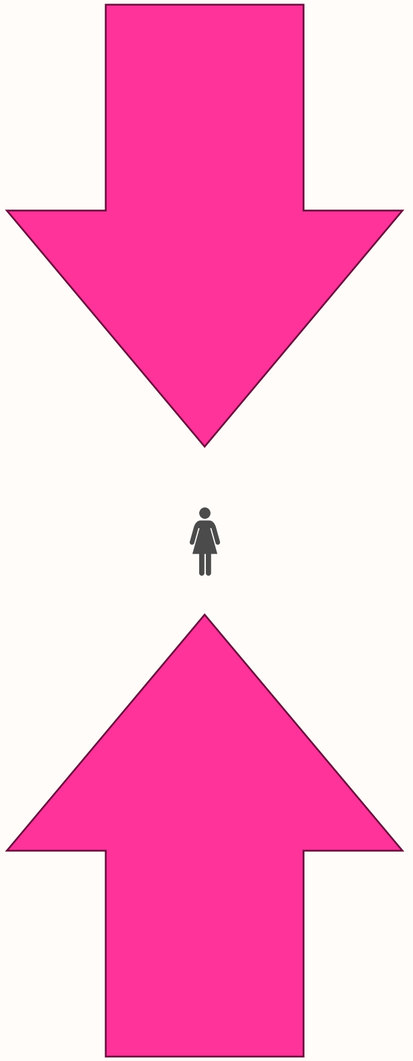
つまり、この歪んだヒエラルキーの中では、

女性の医師は、

・男性の医師からは見下され、

・下の階層の人たちからは突き上げられる

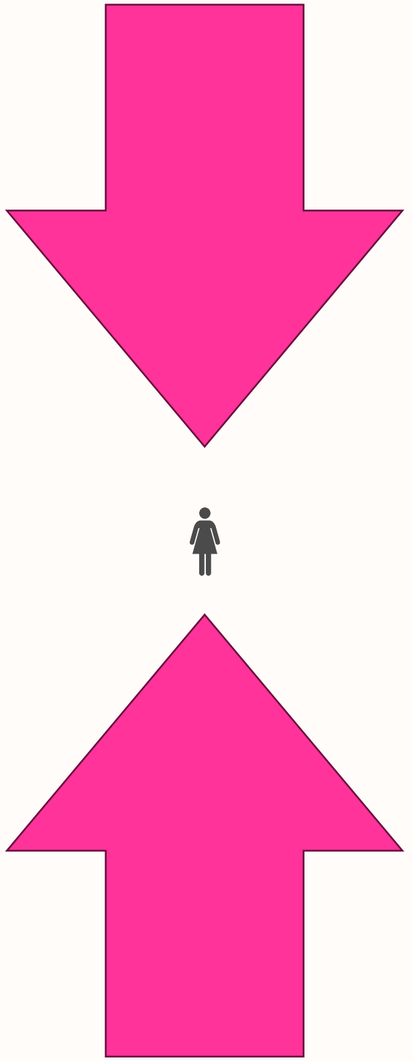
という状況にあることになります。



「歪んだ」ヒエラルキー構造の中で

それが、いいとか悪いとかいう話ではなく、
日本の女性の医師はこのような構造の中に
置かれている。

これから解説を進めるにあたって、
まずこの構造をおさえていただければと
思います。



（補足）男性の医師が文句を言う対象になることもありますが

先程、看護師さんが医師に文句を言うときには、
女性の医師がその対象となることがとても多いと説明しました。

一方で、男性の医師が文句を言う対象に選ばれるケースもあります。

医師の中で最も若い人が男性である場合などがそのケースです。

（補足）男性の医師が文句を言う対象になることもありますが

ただし、男性の医師に文句を言った場合、その医師の上の立場にいる別の男性の医師からの援護射撃が入る可能性があります。

そう考えると、安心して文句を言えなくなる。

そのため、どれだけ突き上げたとしても、男性の医師からの援護射撃が来ることはない女性の医師が、文句を言う対象に選ばれる可能性はとても高くなる傾向があるのです。

開業後の現実

開業している医師にのみ当てはまる構造

先程、「女性の医師」が置かれている構造についてお話ししたので、
今度は「開業医」が置かれている構造についてお話ししてみようと思います。

なぜならば、開業している医師にのみ当てはまる構造があるからです。

開業するとどうなるか？

ご自身で新規開業するにしても、

お父様やお母様からクリニックや診療所を継いだとしても。

開業するとご自身のクリニックや診療所を持つことになります。

開業するとどうなるか？　～研究に使える時間編～

Ｑ１.では、開業してご自身のクリニックや診療所を持った後、
研究に使える時間は増えるでしょうか？ 減るでしょうか？

開業するとどうなるか？　～研究に使える時間編～

Ｑ１.では、開業してご自身のクリニックや診療所を持った後、
研究に使える時間は増えるでしょうか？ 減るでしょうか？

Ａ１.減る

開業するとどうなるか？　～研究に使える時間編～

Ｑ１.では、開業してご自身のクリニックや診療所を持った後、
研究に使える時間は増えるでしょうか？ 減るでしょうか？

Ａ１.減る

なぜならば、開業した後は、診療以外にも、
スタッフの労務管理や、経営的な事務作業などが
増えるため、診療以外に使える時間は
驚くほど少なくなるからです。

開業するとどうなるか？　～研究に使える時間編～

Ｑ１.では、開業してご自身のクリニックや診療所を持った後、
研究に使える時間は増えるでしょうか？ 減るでしょうか？

Ａ１.減る

その結果、医師としての専門性は
上がらず、相対的には低下します。

開業するとどうなるか？　～最新の医療機器編～

Ｑ２.では、開業してご自身のクリニックや診療所を持った後、
常に最新の医療機器を揃えておくことはできるでしょうか？

開業するとどうなるか？　～最新の医療機器編～

Ｑ２.では、開業してご自身のクリニックや診療所を持った後、
常に最新の医療機器を揃えておくことはできるでしょうか？

Ａ２.できない

開業するとどうなるか？　～最新の医療機器編～

Ｑ２.では、開業してご自身のクリニックや診療所を持った後、
常に最新の医療機器を揃えておくことはできるでしょうか？

Ａ２.できない

なぜなら、2年に1度の診療報酬改定によっては、
設備投資が経営に対する大打撃になることもある
からです。

そんな状況の中、ほいほいと、最新の医療機器ばかりを
揃えるわけにはいかないのです。

開業するとどうなるか？　～最新の医療機器編～

Ｑ２.では、開業してご自身のクリニックや診療所を持った後、
常に最新の医療機器を揃えておくことはできるでしょうか？

Ａ２.できない

開業時に最新のものだったとしても、
早晩、院内の医療機器は
陳腐化していくことになります。

開業するとどうなるか？　～学会編～

Ｑ３.では、開業してご自身のクリニックや診療所を持った後、
学会に行きやすくなるでしょうか？ 行きにくくなるでしょうか？

開業するとどうなるか？　～学会編～

Ｑ３.では、開業してご自身のクリニックや診療所を持った後、
学会に行きやすくなるでしょうか？ 行きにくくなるでしょうか？

Ａ３.行きにくくなる

開業するとどうなるか？　～学会編～

開業医が学会に行きたいときには、代診の先生を頼めばいいと
言われている方も多い印象がありますが。

今のクリニックの状況、診療所の状況で、
代診の先生を頼んでいいかがわからない
という理由から代診の先生を頼めないままでいる先生はとても多いです。

（これから先の説明のための補足）

自院のお金の流れの把握状況について

（補足）自院のお金の流れの把握状況について

実は、クリニックや診療所のお金の流れを把握していれば、
今のクリニックの状況、診療所の状況で
代診の先生を頼んでいいかどうかがわからないということは、
なくなります。

ただし、クリニックや診療所のお金の流れを
しっかりと把握している院長先生はほぼいません。
なぜならば。。。。

（補足）自院のお金の流れの把握状況について

自院のお金の流れを把握していなくても

お金が入ってきちゃうから。

というのも、クリニックや診療所では、多くの企業にとっての課題である「売上の回収」という問題が発生することがほぼありません。

なぜならば、厚生労働省がその部分を担ってくれているからです。

（補足）自院のお金の流れの把握状況について

その結果、
「自院のお金の流れをしっかり自分で把握したい」
というニーズが生まれにくい状況になっているのではないか。

これが、これまでさまざまな先生からのご相談をお聞きしてきた中で
感じることのひとつです。

（補足）お金の流れの把握状況について

また、クリニックや診療所のお金の流れの把握を「人任せ」にしている
院長先生もかなりの数に上ります。

「人任せ」と言うと聞こえが悪いですが、
税理士さんや会計士さんといった専門家に、
「任せています」とおっしゃる院長先生はとても多いです。

（補足）お金の流れの把握状況について

そして、税理士さんや会計士さんといった専門家に、
「任せています」とおっしゃる院長先生の言葉の裏側には、

「専門家に任せておけばだいじょうぶ」

という認識があるように感じます。

（補足）お金の流れの把握状況について

・お金も入ってきているし、
・専門家に依頼してもいるから
だいじょうぶ。

このように思っている先生は少なくない気がしますが、では、
この状況の中で、ご自身のクリニック経営や診療所経営に対して、
しっかりとしたグリップ感を持てるかというと。

（補足）お金の流れの把握状況について

・お金も入ってきているし、
・専門家に依頼してもいるから
だいじょうぶ。

このように思っている先生は少なくない気がしますが、では、
この状況の中で、ご自身のクリニック経営や診療所経営に対して、
しっかりとしたグリップ感を持てるかというと。

ここは、一度冷静に考えてみるべきところかもしれません。

以上、これから先の説明のための補足でした。

では、本題に戻ります。

開業するとどうなるか？　～学会編～

話を開業後の状況に戻しますと、代診の先生を頼めないなどの理由で
開業後、なかなか学会にも行くことができないという
状況になる先生はとても多いというのが現実のようです。

開業するとどうなるか？　～学会編～

Ｑ３.開業してご自分のクリニックや診療所を持った後、
学会に行きやすくなるでしょうか？ 行きにくくなるでしょうか？

Ａ３.行きにくくなる

医師としての専門性に頭打ち感を
感じるようになることも。

開業するとどうなるか？

つまり、開業すると

・研究に使える時間は減る。

・最新の医療機械は使えなくなる。

・学会にも行けなくなる。

このような状況が生まれることになるわけですが、

これも構造的な話だと言えると思います。

開業するとどうなるか？

こうして俯瞰してみると、
開業したことによって、「最新の医療からものすごく遠ざかっていっている」
という感覚を持つ方が多く出てくる理由もおわかり
いただけるのではないかと思うのです。

開業するとどうなるか？

その意味では、僕はこれまでいろいろな先生からご相談を聞かせて
いただいてきましたが、「学会の話」は意外に重要である
という印象を持っています。

開業するとどうなるか？

たとえば、大学病院にお勤めのときであれば、同僚の先生が
学会に行った時の話を聞かせてもらったりもできたし、
世の中とのつながりも感じられたかもしれないけれど、
開業した後は、「そういうつながりがほぼなくなっていってしまった」
というお話を聞かせてくださる先生もいらっしゃるからです。

開業するとどうなるか？　～学会編～

Ｑ３.では、開業してご自分のクリニックや診療所を持った後、
学会に行きやすくなるでしょうか？ 行きにくくなるでしょうか？

Ａ３.行きにくくなる

・医師としての専門性に頭打ち感を感じるようになることも。
・世の中とのつながりがなくなっていくように感じることも。

開業するとどうなるか？

つまり、開業すると

・研究に使える時間は減る。

・最新の医療機械は使えなくなる。

・学会にも行けなくなる。

このような状況が生まれることになるわけですが、

これも構造的な話だと言えると思います。

ここまで、

・女性の医師にのみ当てはまる構造をひとつ

・開業している医師にのみ当てはまる構造をひとつ

お話してきました。

次に、

これから先の解説に進むための土台となるお話

をさせていただきます。

これから先の解説に進むための土台となるお話

ここで、これから先の解説に進むための土台となるお話を
させていただきたいと思います。

「医療」に携わる人全員に共通する土台の話です。

「医療」に関わる人全員に共通する特徴とは？

「医療」に携わる人全員に共通する特徴とは

自分のことを「人」ではなく、「機能」だと思っていること

です。

「医療」に関わる人全員に共通する特徴とは？

この特徴をわかりやすくするために、一般的な話をしてみます。

ほとんどの人は、初対面の人と会ったときには、
「はじめまして。一條と申します。」というように、
自分の名前を名乗ってあいさつをすると思います。

「医療」に関わる人全員に共通する特徴とは？

では、ここで想像してみていただきたいのですが、

たとえば、病院で看護師さんが入院患者さんの血圧を測るときに

自分の名前を名乗るでしょうか？

「医療」に関わる人全員に共通する特徴とは？

名乗りませんよね？

「は～い、一條さん、血圧測りますね～」と言いながら、
パッパッと血圧測って、パッと帰っていきますよね？

「医療」に関わる人全員に共通する特徴とは？

では、その看護師さんが、お休みの日に、
初対面の人と会ったときにもあいさつをしないのかというと。

きっと、「はじめまして。一條と申します。」というように、
自分の名前を名乗って、
あいさつをしているはずだと思うのです。

「医療」に関わる人全員に共通する特徴とは？

初対面の人と会ったとき、
それがおやすみの日だった場合にはきちんと自分の名前を名乗って、
あいさつをするのに、
お仕事をしているときには自分の名前を名乗りもしないし、
あいさつもしないという事実は、

この看護師さんはお仕事をしているときには、
「人」ではなくて「血圧測定マシーン」になっている
ということを意味していると考えられます。

「医療」に関わる人全員に共通する特徴とは？

つまり、

「人」ではなくて「機能」になっている。

「医療」に関わる人全員に共通する特徴とは？

「人」じゃないんだから、「人」として行動しなくていいでしょ？

という話なのです。

「医療」に関わる人全員に共通する特徴とは？

ところで、僕からこういう話を聞いた医師の方の中には

「まぁ、看護師さんだからレベルが低いんだよ」

という反応をされる方もいらっしゃいます（笑）

「医療」に関わる人全員に共通する特徴とは？

では、医師の方の中で、

初めて会った患者さんに対して、
「はじめまして。
　本日、診察させていただきます一條と申します。」

というように、自分の名前を名乗って、
あいさつをしている方は、どれだけいらっしゃるでしょうか？

「医療」に関わる人全員に共通する特徴とは？

初めて会った患者さんに対して、

「はじめまして。

　本日、診察させていただきます一條と申します。」

というように、自分の名前を名乗って、

あいさつをしている方は、

ほぼいらっしゃらないのではないかと思います。

「医療」に関わる人全員に共通する特徴とは？

つまりその人は、
お仕事をしているときは、
「診察マシーン」になっている
ということなのです。

「医療」に関わる人全員に共通する特徴とは？

一方で、この医師の方も、お休みの日に初対面の方に
お会いされたときには、
きちんと自分の名前を名乗って、
あいさつをされていらっしゃると思うのです。

つまり、この「あいさつ」は「人」としての基本ともいえる内容
だと思いますが、
医療の業界ではこの基本がないがしろにされているわけです。

「医療」に関わる人全員に共通する特徴

ところで、「人」としての基本がどうこうという話は、
今日のお話のテーマではありません。

「診察マシーン」になっていることが、
いいとか悪いとかいう話でもありません。

「医療」に関わる人全員に共通する特徴

ではなぜ、このようなお話をさせていただいたのかと言えば、

自分のことを「機能」だと認識している人は、
自分の「機能的価値」こそが、自分の価値だ
と見なすようになりがちだということを
ご理解いただきたかったからなのです。

「医療」に関わる人全員に共通する特徴

というのも、先程、開業したら

・研究に使える時間は減る。

・最新の医療機械は使えなくなる。

・学会にも行けなくなる。

このような状況が生まれることになる

『社会的な構造』があるというお話をしたわけですが。

「医療」に関わる人全員に共通する特徴

これらのことによって、

「自分の機能的な価値が減っていっている」

という感覚を抱えることになる医師の方は

非常に多いという事実をご理解いただければと思うのです。

女性の医師にのみ当てはまる構造　ふたつめ

自覚がなくてもストレスはかかる

ここまで

・女性の医師のみに当てはまる構造としての「歪んだヒエラルキー構造」
・開業している医師のみに当てはまる構造としての「開業することによって
　みっつの要素が減少することになる構造」
・「医療」に関わる人全員に共通する特徴

についてお話をしてきました。

自覚がなくてもストレスはかかる

これだけでも、開業している女性の医師がかなりのストレス下にあることがご理解いただけると思います。

ストレスを自覚しているかしていないかは問題ではありません。

これらはすべて「構造」によるものなので、
この「構造」の中にいる人には、その人の自覚の有無にかかわらず、
必ずストレスがかかるからです。

「女性の医師にのみ当てはまる構造」　ふたつめ

これだけでも大変な状況ではありますが、対象を「女性の医師」
に限れば、もうひとつ、理解しておくべき構造があります。

今日は、女性の先生しかいらっしゃらないので、
ぶっちゃけたお話をさせていただきたいのですが、

20代で開業する女性の医師は多いでしょうか？ 少ないでしょうか？

「女性の医師にのみ当てはまる構造」　ふたつめ

実際の話、20代で開業する方は
ほぼいらっしゃらないというのが現実だと思います。

実際、僕のところに相談に来てくださっている先生たちも、
開業したのは40代になってからという方が多いです。

一番若い方でも34歳での開業でした。

「女性の医師にのみ当てはまる構造」　ふたつめ

では仮に、40代になってから開業したとして。

クリニック経営や診療所経営を軌道に乗せるために、
何年か経ち、そして、一息つける状態になったとします。

「女性の医師にのみ当てはまる構造」　ふたつめ

ではこのときの年代が、

女性にとってどのような意味を持つのか？

「女性の医師にのみ当てはまる構造」　ふたつめ

この年代と、
ご自身の肉体が衰えていっていると感じ始める年代が重なる
という感覚を持つ人が、とても多いことは
想像に難くないと思うのです。

男の僕が言うなっていう話なのですけれども

ということは。

- 開業したことによって、医学的な面での「機能的な価値」が落ちて行くことに加えて、
- 体調や容姿といった肉体的な面での「衰え」を感じてくる。

この「ダブルパンチ」の状況にはまっていっている方はとても多い。

これがこれまでの僕の実感です。

男の僕が言うなっていう話なのですけれども

つまり、日本で開業している女性の医師であれば

・そもそも歪んだヒエラルキー構造の中に身を置くことに
　なっており、
・そこから開業したことによって医学的な面での「機能的価値」
　が損なわれて行き、
・さらに体調や容姿といった肉体面での「衰え」を感じてくる。

このような「構造」があるわけで。

男の僕が言うなっていう話なのですけれども

このような構造の真っただ中にいる人が、
ふと、自分の人生を考えたときに、

「なんだか思っていた世界と違うなぁ。。。」

という感覚を持つことになったとしても、
それは決して不思議なことではないのではないかと思うのです。

「構造」に対する理解を深めていただくために、

さらに土台をさかのぼります。

これまでのお話の土台になるお話も

さらに根本的なお話をさせていただきますと、

日本では「医療の業界」そのものが、

先行きが不透明な業界であるということも

考慮しなければならない「構造的要因」だと思います。

これまでのお話の土台になるお話も

ではなぜ、日本の「医療の業界」の先行きが不透明なのかといえば、

日本の「医療の業界」には、

・病院やクリニックや診療所がコントロールできないところで、

・病院やクリニックや診療所の経営状況が左右されてしまう

という構造があるからです。

これまでのお話の土台になるお話も

簡単に言えば、診療報酬改定があることによって、

・いきなり医業収益が減る可能性があるし、
・先を見越した設備投資もしにくい

という状況にあるのが、日本の「医療の業界」になるわけで。

これまでのお話の土台になるお話も

「先行きを厚生労働省に握られている」と言うこともできると
思いますが、いずれにしてもこのような状況があるわけで。

この状況の中では、先行きに不透明さを感じない人の方が
おかしいと言えるのかもしれません。

「診療報酬改定」の影響を感じやすい人たち

ところで、この「診療報酬改定」に関して言えば、
開業したとたんに、診療報酬改定の影響をものすごく
受けることになったと感じていらっしゃる先生も
少なくないようです。

「診療報酬改定」の影響を感じやすい人たち

「病院に勤務していたときはそんなことなかったのに」

とおっしゃる方もいらっしゃいますが、それはその通りで、
勤務医の時はお給料の額が決まっていたから、診療報酬が
多少変わってもそんなに大きな影響はなかったはずなのです。

「診療報酬改定」の影響を感じやすい人たち

ところが、自分で開業したとたん、診療報酬改定の影響は
医業収益に直結するし、その結果、自分の生活にも直結
することになる。

「診療報酬改定」の影響を感じやすい人たち

しかも、その変化に対して、

自分でなにもすることができない。

「診療報酬改定」の影響を感じやすい人たち

僕のところには、「今はうまくいっているけれど」
という前置きで、将来に対する不確かさについての相談を
してくださる女性の医師の方たちがお越しになられますが、
彼女たちがそのように感じることになるのも
当然のことだと思うのです。

（補足）

自院のお金の流れの把握について

（補足）ふたたび「自院のお金の流れの把握」について

さきほど、「自院のお金の流れの把握」が重要
であるというお話をさせていただきました。

その理由は、診療報酬改定によって、
医業収益の流れが変わってしまう可能性があるからなのですが。

（補足）ふたたび「自院のお金の流れの把握」について

つまり、ご自身で自院のお金の流れを把握していれば、
診療報酬改定によってなにかの対応が必要になった時にもすぐに手が打てる。

これを「人任せ」にしていては、対応が２ケ月遅れ、
３ヶ月遅れになってしまうこともあります。
でも、それでは遅すぎることもあるかもしれません。

つまり、「人任せ」にしていては、対応が必要になった時に
すぐに対応することがむずかしいのです。

（補足）ふたたび「自院のお金の流れの把握」について

その一方で、ご自身で自院のお金の流れを把握していれば、
なにかの対応が必要になった時にもすぐに手が打てる。

これは事実ですので、
ぜひ、ご参考にしていただければと思います。

まずは「構造」を理解するところから

今日、お話ししてきた項目は5つです

ここまで、

・女性の医師にのみ当てはまる構造をふたつ
・開業している医師にのみに当てはまる構造をひとつ
・「医療」に関わる人全員に共通するを特徴ひとつ
・医療業界の土台にある構造をひとつ

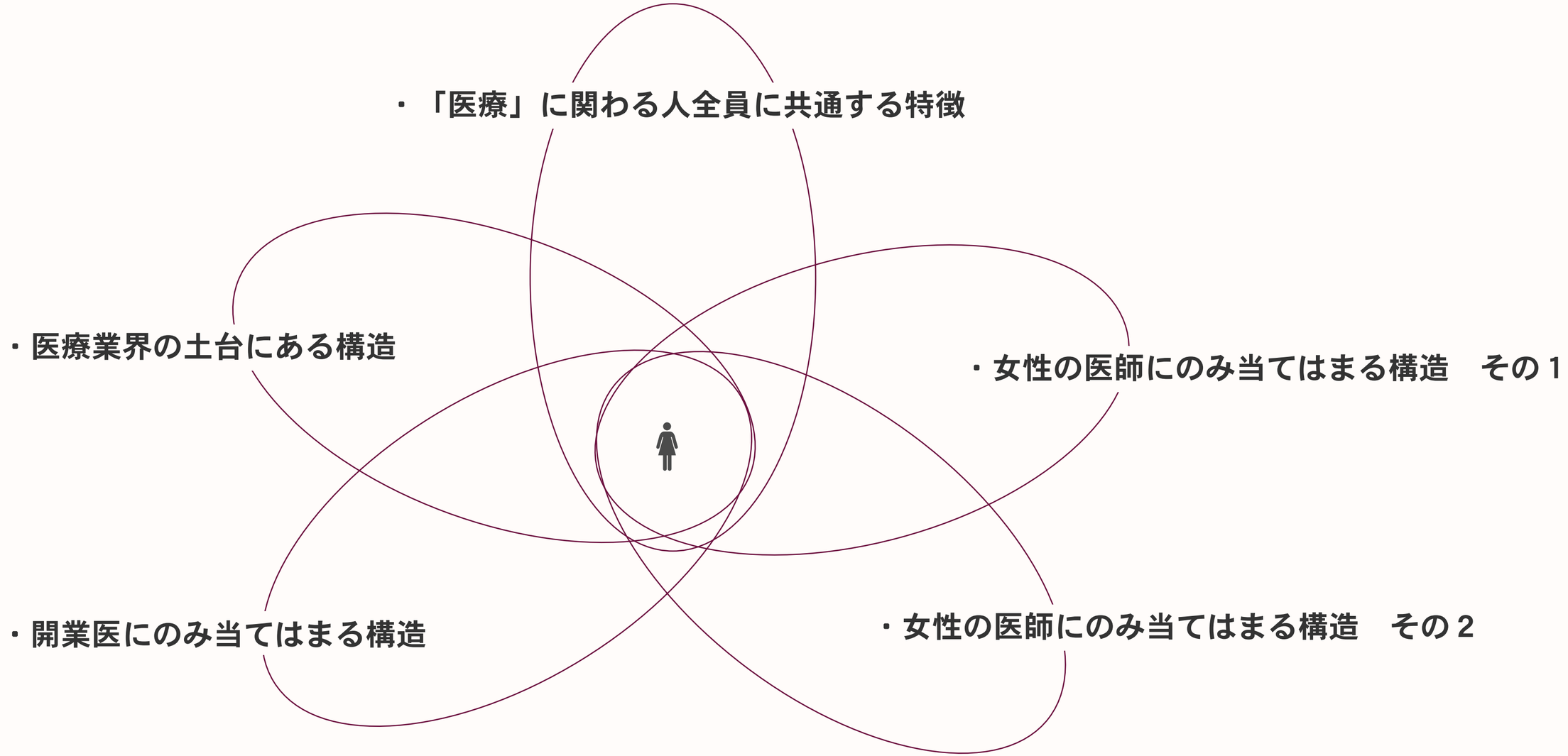
合計5つの項目についてお話ししてきました。

今日、お話ししてきた項目は5つです

この5つの項目すべてから影響を受ける存在。

それが、日本で開業している女性の医師であることが
おわかりいただけたのではないでしょうか？

開業している女性の医師には5つの項目すべてが影響している



冒頭の話に戻ってみると

冒頭でお話した通り、僕のところに相談に来てくださったときに

「こんなはずじゃなかったんだけどな。。。」

という口にされる女性の医師の方は少なくありません。

冒頭の話に戻ってみると

つまり、
お医者さんにもなったし、開業もしたんだけど。

当初、「こういう世界が広がるんだろうな」と期待していた世界とは
まったく違う世界にいるような気がする。

という感覚を持ち、

冒頭の話に戻ってみると

そして僕に向かって、

「なんでこんなことになっちゃったんだろ。。。」と、

質問のような、ひとりごとのような、そんな発言をする。

冒頭の話に戻ってみると

そして僕に向かって、

「なんでこんなことになっちゃったんだろ。。。」と、

質問のような、ひとりごとのような、そんな発言をする。

そのような方はめちゃくちゃ多いのです。

冒頭の話に戻ってみると

そこで僕は、おひとりおひとりに対して、

「なぜ、そのようなことになっているのか」

の理由をお話しすることになるのですが。

今日は、いつも僕がしている話をしてきました

今日は、そうやって僕が、おひとりおひとりに対して、
説明している内容を、お話ししてみました。

「そりゃそうなるわ」と思えたら

こうして、細かく状況を紐解いていくことで、

「そりゃ『なんだかなぁ』って感覚になるよねぇ」

という理解を持つことができるようになった方も
いらっしゃるのではないかと思うのです。

「そりゃそうなるわ」と思えたら

もしもそのような理解を持たれた方がいらっしゃったとしたら。

その方は、「構造」を理解し始めた

ということかもしれません。

「そりゃそうなるわ」と思えたら

もちろん、構造を理解したからといって

構造が変わるわけではありません。

「構造」への理解を通して世の中を見る

でも、「構造」への理解を通して世の中を見ることができれば、

「なんで自分は」と思う必要がなくなります。

だって、今の状況を生み出しているのは自分の資質ではないとわかるから。

「構造」への理解を通して世の中を見る

そして、「構造」への理解を通して世の中を見ることができれば、
同じ状況下にある人は、ものすごくたくさんいることも理解できてきます。

すると、「自分だけがこんなことになっているんじゃなかろうか」とか、
「自分だけがこんなことを思ってるんじゃなかろうか」
と思わなくても済むようになる。

「構造」への理解を通して世の中を見る

それだけでも「ひとりぼっち」だと感じなくて済む
ようになるかもしれません。

人をむしばむ「ひとりぼっちの感覚」

というのも、開業している女性の医師の方の中には、この
「ひとりぼっちの感覚」を抱えていらっしゃる方が
とても多いと感じるのです。

人をむしばむ「ひとりぼっちの感覚」

・クリニックや診療所の経営について相談できる人もないし。

・弱音を吐ける相手もいない。

そのような状況の中で「ひとりぼっちの感覚」を深めていかれる
方はとても多いのですが。

人をむしばむ「ひとりぼっちの感覚」

この、「ひとりぼっちの感覚」というものは非常に厄介です。

なぜならば、「ひとりぼっちの感覚」を持つと、
人は世の中から遮断されたような状態になり、
その結果、まともに思考が働かなくなるからです。

人をむしばむ「ひとりぼっちの感覚」

そもそも開業している時点で、世の中とのつながりの感覚
が希薄になっていたりしますから、開業している女性の医師の
方に関して言えば、「ひとりぼっちの感覚」をできる限り
払拭していただけたらいいなぁと思うのです。

僕が「構造を把握するためのお話」をする理由

ですので、今日のこういうお話を聞かれた方の中で、
「ひとりぼっちの感覚」を持たなくていいんだと思った方が
でてきたら、僕はすごくうれしいわけでして。

僕が「構造を把握するためのお話」をする理由

ですので、今日のこういうお話を聞かれた方の中で、
「ひとりぼっちの感覚」を持たなくていいんだと思った方が
でてきたら、僕はすごくうれしいわけでして。

という僕は、3人の娘の父親でもありまして。
ですので、女子さんたちにはできるかぎり、
心穏やかに過ごせる環境にいてもらいたい
という個人的な想いがあったりするのです（笑）

僕が「構造を把握するためのお話」をする理由

その意味で、こういう「構造を把握するためのお話」も
役に立つ人がいらっしゃるとうれしいなと思って、
少しお話ししてみました。

新しい世界を見るために

今と違う場所に行く前には、自分が今、どこにいるのかを
知っておくことが必須だとも思いますし。

新しい世界を見るために

その意味で、今日のお話が、ご自身が今どこにいるのかを
把握するお役に立ったらいいなと思っております。

というわけで。

なにかの参考にしていただければうれしいです。

（おまけ）

・再診率が大幅に向上し

・自費診療も求められるようになる

初診の患者さんへの接し方

「はじめまして」とお会いする初診患者さんとの関わり方

先程、医療の業界では「人」としての基本がないがしろに
されているとお話しましたが。

業務的な話をさせていただければ、「医療の業界」で
「人」としての基本がないがしろにされているからこそ、
この部分にしっかり取り組むだけで、
地域の中で「選ばれるクリニック」や「選ばれる診療所」
になることができる、という利点があります。

自分の名刺を渡して、名前を名乗るだけで・・・

実際、僕のところに相談に来て下さる女性の院長先生たちには
「はじめまして」とお会いする初診の患者さんには必ず、
患者さんに自分の名刺を渡して、
名前を名乗るということをしていただいているのですが。

その効果は絶大です。

でも、これはなぜなのでしょうか？

患者さんも「人」ですから

答えは簡単です。
というのも、患者さんも「人」ですから、自分のことを「人」
として扱ってくれる人に好意を持つことになるのは当たり前なのです。

しかも、そういうことをしてくれる医者は他にはいないわけですから。

患者さんはある意味で、その先生のファンになってしまうのです。

「人」としての基本に取り組むだけで・・・

効果は絶大。

コストもかからない。

やったとしても「いい先生だなぁ」と思われるだけ。

なんのリスクもありません（笑）

やってみようと思われた先生には、ぜひ、お試しいただければと思います。

（補足）名刺に書くべき3要素

ここからは「やってみよう！」と思われた先生のための補足ですが、
患者さんに名刺を渡す場合、単に名前が書いてあるだけの名刺
では効果はほぼありません。

ですので名刺には、
・自分が医療を志した際のエピソード
・患者さんたちとどんなかかわり方をしていきたいのか
・自分はなにを大切にしているのか
の３つを書いてください。

（補足）名刺に書くべき3要素

その内容も「地域医療に貢献」といった、猫も杓子も
同じようなことを言っている内容ではなくて、
ご自身の背景を幼少期までしっかり掘り起こしたうえで
見つけた、それぞれの方の「価値判断の基準」をもとに
書いていく。

（補足）名刺に書くべき3要素

初めて会った患者さんには、

・その名刺を渡しながら、

・きちんと自分の名前を名乗ってあいさつをする。

それだけで

・再診率が大幅に向上し、

・自費診療も売れるようになる

ぜひ、試してみてください。